

令和5年度

熊本県学力向上研究指定校事業
(総合的な探究の時間「尚志」)
における研究成果報告

熊本県立小国高等学校

後藤弘道

目次

- 01 - 学校紹介
 - 02 - 研究主題、研究内容等
 - 03 - 活動内容報告
 - 04 - OGUNI-GOプロジェクト
 - 05 - これまでの研究の成果と課題
 - 06 - 今後の取組について
-
-



- 普通科6クラス 143名 (R6.4.8時点)
- 創立102年 (2022年度創立100周年)
- 三綱領「尚志・勉学・自主」
- COREハイスクールネットワーク構想
～地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・
協働ネットワーク事業～ (昨年度まで3年間指定)
⇒ 「各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改
革推進事業(学びの機会の充実ネットワークの
構築)」(通称「垣根事業」)(採択されれば1年目)
- 学力向上研究指定事業 (総合的な探究の時間) 2年目



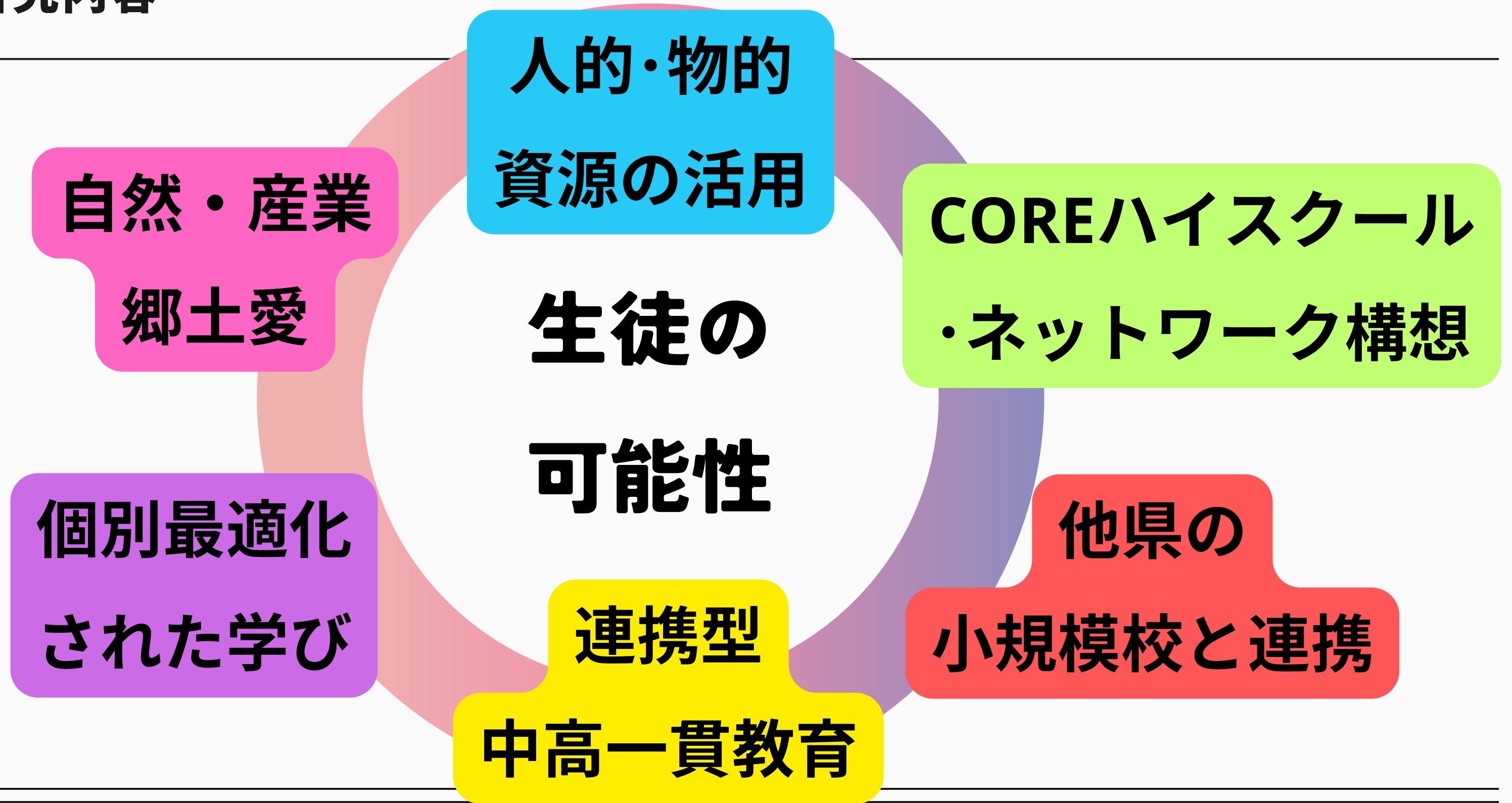
02 研究主題、研究内容等

地域社会との有機的な連関の中で、課題の発見と解決、さらには社会的な価値の創造に結びつける資質・能力を育成するために、教科横断的で協働的な学びを行う総合的な探究の時間「尚志」を設定し、研究開発を行う。

地域課題の
発見と解決

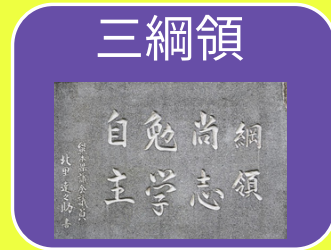
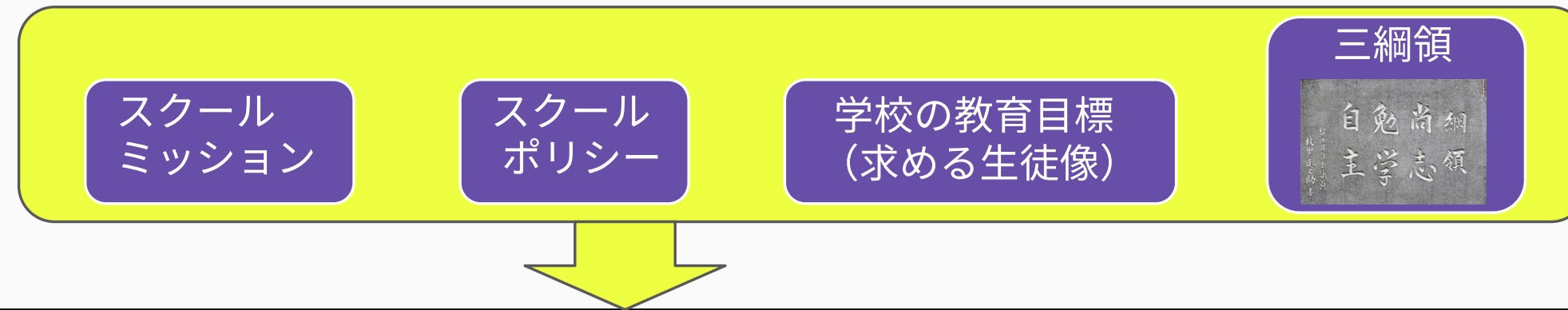
社会的な
価値の創造

- 1 地域への理解・郷土愛を深め主体的な課題発見・解決能力を培うための、地域社会の文化、自然、産業といった各分野の望ましい探究活動の在り方に関する研究
- 2 より具体的で実践的な探究活動を行うための、効果的な地域の人的・物的資源の活用の工夫に関する研究
- 3 令和5年度末で指定が終了する、COREハイスクール・ネットワーク構想で得られた知見や、他校とのネットワークなどの今後への生かし方に関する研究
- 4 同じ課題を抱える他県の中山間地域の小規模校と連携することを通して、自らの探究をより客観的で実効性の伴うものへと発展させることへの研究
- 5 連携型中高一貫教育の特長を生かした、対象中学校との連携による探究の方向性や価値の共有と、それに基づく系統的で深まりのある探究活動についての研究
- 6 評価とそれに伴う個別最適化された学びの在り方についての研究



02-3

「総合的な探究の時間（尚志）」 3年間の大まかな流れ

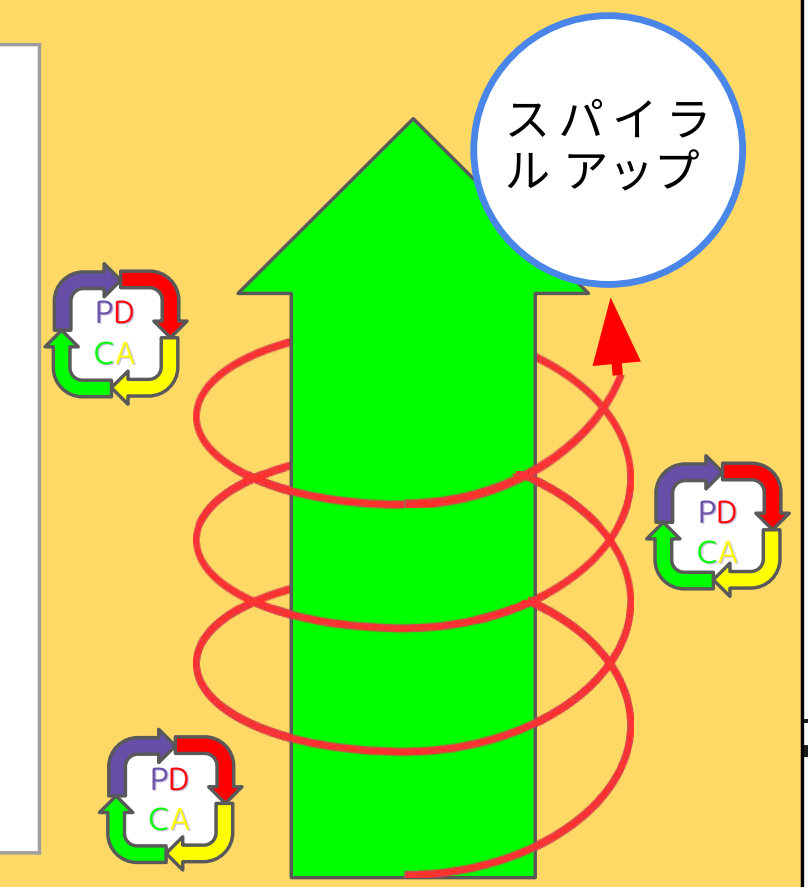


3年間の「尚志」の目標：自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し、解決していく探究的な取組及びその振り返り（尚志探究）を通して、コミュニケーション能力をはじめとした資質・能力を育成することを目指す。また、身につけた力を自覚できることを促す。（別紙ルーブリック参照）

尚志探究	探究課題 取組内容
第3学年 尚志探究III 自分と社会の つながり	個人による課題研究の深化と、自己を見つめ振り返ることで自分がどのようにして社会に貢献していくのかを考える取組 志望理由講座 面接練習 等
第2学年 尚志探究II 課題探究	自己の在り方生き方と一体的で、解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や唯一の正解が存在しない課題に対して、多様な人々と関わり、個人またはグループで最適解や納得解を見いだす取組とその振り返り 地域の有識者との交流 インターンシップ オンライン交流 校内尚志発表会 等
第1学年 尚志探究I 地域探究 ～小国郷を知る～	地域の探究課題に対して、有識者と連携したグループによる課題探究の実施とその振り返り 地域の有識者との交流 小国郷町歩き 尚志講座 校内尚志発表会 等



探究的横断的な学びを通じた



「総合的な探究の時間（尚志）」 3年間の大まかな流れ

尚志探究	探究課題 取組内容
第3学年 尚志探究Ⅲ 自分と社会の つながり	個人による課題研究の深化と、自己を見つめ振り返ることで自分がどのようにして社会に貢献していくのかを考える取組 志望理由講座 面接練習 等
第2学年 尚志探究Ⅱ 課題探究	自己の在り方生き方と一体的で、解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や唯一の正解が存在しない課題に対して、多様な人々と関わり、個人またはグループで最適解や納得解を見いだす取組とその振り返り 地域の有識者との交流 インターンシップ オンライン交流 校内尚志発表会 等
第1学年 尚志探究Ⅰ 地域探究 ～小国郷を知る～	地域の探究課題に対して、有識者と連携したグループによる課題探究の実施とその振り返り 地域の有識者との交流 小国郷町歩き 尚志講座 校内尚志発表会 等

「知識・技能」

「思考・判断・表現」

「主体的に学習に取り組む態度」

客観的

独創的

他者との関わり

objective

unique

interactive

地域性×地球的視野

気づき

向上・改善する

glocal

notice

improve

知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
O	G	U	N	I	
objective	glocal	unique	notice	interactive	improve
客観的	地域性×地球的視野	独創的	気付く	他者との関わり	向上・改善する

評価基準「OGUNIルーブリック」

熊本県立小国高等学校 総合的な探究の時間「尚志」 OGUNIルーブリック 2023年3月

観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	O	G	U	N	I	
	objective	glocal	unique	notice	interactive	improve
重視する観点	客観的	地域性×地球的視野	独創的	気付く	他者との関わり	向上・改善する
具体的活動内容						
3 学年 III	自分と社会のつながり (面接練習・ 志望理由作成)	自己を客観的に見て分析し、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付けることができる。	広い視野を持って自己と社会の関わり方を考え、自分の強みを活かしながら地域や社会に貢献する方法を身に付けることができる。	高校生活3年間で得たことを整理・分析し、自分にしかない良さや強みを見出し、相手に伝わるようにわかりやすく表現することができる。	教員や友人など、他者と積極的にコミュニケーションを取りながら自分と向き合うことができる。	他者からのアドバイスを受け止め、新たな価値を創造し、自己の成長に繋げることができる。
	学校・地域への 貢献活動	小国高校や小国郷への貢献活動に必要な知識及び技能を身に付け、活動の意義や価値を理解することができる。		小国高校や小国郷と自己との関わりから、学校や地域に対して自分にできることを考え、計画・実践することができる。	小国高校や小国郷に対する感謝の気持ちを持ち、主体的・協働的に考え、行動することができる。	小国高校や小国郷の良さを活かしながら、よりよい学校・町を実現しようとするすることができる。
2 学年 II	課題研究	参考文献・実験・調査などを通して、より多くの人が納得するような探究をすることができる	1学年次の研究の深化、または新たな課題を設定する際、SDGsなどの地球規模の問題にも目を向け、課題を設定することができる。	自分で立てた課題について、情報を集め、整理・分析して、自分の意見をまとめることができる。成果発表では、聞き手にわかりやすいスライド作成、適切な声の大きさや表情など、1年次よりもプレゼンテーション能力を高めることができる。	大学や企業など専門分野の方や地域の方と積極的に関わりながら研究を深め、よりよいものにしようすることができる。お互いの課題研究発表を見ることで互いのよさを生かしながら、自分の研究の質を高めようすることができる。	
		インターンシップ	働く体験を通して職業観、勤労観を育むとともに自己の適性についての理解を深めることができる。また、進路決定に必要な知識・技能を身に付けることができる。	事業所の志望理由書において、その事業所で就労体験をしてみたい理由を明確に表現することができる。報告書では、新たな発見や今後に生かしたいことなどを自分の言葉でわかりやすく表現することができる。	事業所の方と積極的にコミュニケーションをとりながら、主体的・協働的に活動することができる。学ぶ意欲を持ち、インターンシップでの経験を今後の学校生活や進路に生かすことができる。	
		オンライン交流	オンライン交流に必要な機器の操作、表情やジェスチャーも含めたコミュニケーション能力を身に付けることができる。	僻地、小規模校といった共通点から他校生徒の課題研究を自分の課題研究と重ね合わせて考えることができる。	他校生徒の課題研究から新たな気づきを得たり、自分のオリジナリティをさらに深めたりするなど、自分の課題研究に生かすことができる。リモート越しの聞き手にも伝わりやすいプレゼンテーション能力を身に付けることができる。	リモート越しの相手と、言葉、表情、ジェスチャーを使って積極的にコミュニケーションを図ることができる。全4回のオンライン交流を通して、コミュニケーション能力の向上と課題研究の質の向上を図ることができる。
1 学年 I	地域探究 ～小国郷を知る～	参考文献・実験・調査などを通して、客観的に探究することができる。	小国郷の課題を発見し、解決に必要な知識及び技能を身に付けることができる。	自分で立てた課題について、情報を集め、整理・分析して、自分の意見をまとめることができる。成果発表では、写真やグラフを用いたスライド作成、適切な声の大きさやアイコンタクトなど、プレゼンテーション能力を身に付けることができる。	地域の方と積極的に関わりながら研究を深め、よりよいものにしようすることができる。課題研究に主体的に取り組むとともに、班やクラスのメンバーと協働的に活動することができる。	
		表現力育成 (小論文講座)	与えられたテーマに対して自分の意見とその理由を論理的に述べる知識及び技能を身に付けることができる。	文献や新聞などから様々な分野の知識を得ることで、多岐にわたる分野の小論文を書く知識・技能を習得する必要性を理解することができる。	与えられたテーマに対して柔軟な発想力を持ち、自分の意見や問い、具体例やアイデアなどを考え、それらを筋道を立てて組み立て、読み手に伝わるように表現することができる。	与えられたテーマに対して、他者と意見交換を行い、相手の意見を受け入れながら、論理的で説得力のある意見を述べることも、 添削された小論文を振り返ることで自己の課題を見出し、改善することができる。

03 活動內容報告

03-1

活動内容報告①（地域の有識者による講演会Ⅰ～Ⅳ） 【研究内容1、2】



Universe Quest 代表 神田 みゆき 氏によるSDGs講話の様子（地域の有識者による講演会Ⅰ）



合同会社ogunist 代表CEO 野村 卓馬 氏ら地域の有識者を招いたグループワークの様子（地域の有識者による講演会Ⅲ）

活動内容報告②（ランチミーティング、職員研修、小国郷町歩き） 【研究内容1、2】



地域の有識者との意見交流ランチミーティング及び質問コーナーの実施



職員研修及び情報交換会の実施



小国郷町歩き

活動内容報告③（尚志講座、教科横断的な学びについて）

【研究内容1、2】

尚志講座 (RS. 9. 20) ◀
「これまでの探究活動の取組を整理し、次のPDCAサイクルに繋げる(その2)」◀

氏名: _____

1~2 は前回のプリントに記載。◀
3 前回は、実験例の生徒たちは実は次のような考えで取り組んでいました。右下の文章を読み、「より洗練された質の高い探究」にするためのポイントがどこにあるか、キーワードにアンダーラインを引きながら、近くの人と話し合ってみよう。◀

実践例 マイクロプラスチックの現状を知る



生活圏にある海洋の汚染を調査し、持ち帰った砂の中からどれくらいマイクロプラスチックが含有しているかを分析した。汚染に注意喚起する目的の調査も行っていた。

世界の環境汚染に関心をもった生徒は、マイクロプラスチックによる海の環境汚染に注目した。この生徒は、プラスチックによる海の環境汚染が進んでいるならば、海産物にマイクロプラスチックが蓄積しているのではないかと疑問を立て、仮説を立てた。調査結果と関連し、海産物の汚染物の汚染分析を行った。調査結果を整理し、比較しながら、科学的な観点に基づいて分析した。調査結果では、マイクロプラスチックを見つかることができなかったため、実験方法を改良した。このように、生徒は仮説検証を繰り返しながら、ついに海産物からマイクロプラスチックを検出することに成功した。このように得られた調査結果を、生徒は論文にまとめるとともに、マイクロプラスチックの危険性を広く訴え、今回の探究を通して、生徒は環境汚染への関心を高め、海洋生物や環境汚染について更に学ぶための課題について考えるようになった。

より洗練された質の高い探究 に対するためのポイント

高度化した探究

- 【整合性】 探究において目的と解決の方法に矛盾がない
- 【効果性】 探究において適切に資質・能力を活用している
- 【鋭角性】 焦点化し深く掘り下げて探究している
- 【広角性】 幅広い可能性を視野に入れながら探究している

自律的な探究

- 【自己課題】 自分にとって関わりが深い課題になる
- 【活用】 探究の過程を見通しつづ、自分の力で進められる
- 【社会参画】 得られた知見を生かして社会に参画しよとする

3 をもとに、選んだキーワードの中から自分の中で特に気になったものを一つ選び、「より洗練された質の高い探究」にするためのポイントについて、自分の言葉で整理してみよう。◀

キーワード	ポイント	その理由

4 前回の自身のまとめを見返して、自分たちの班で「より洗練された質の高い探究」を行っていくまでのポイントを左下表に挙げてみよう。(ここが、1つでも挙げられればB評価)◀

キーワード	ポイント	今後のTODO

5 4 を基にした今後のTODOを右下表にまとめよう。◀

1 2 3 4 5 をもとにグループで報告し合おう。時間があれば、相手の班に質問をしよう。◀

(発表例) 私たちは、今まで●●(4をもとにした内容)といったことを行ってきた。今回の授業を通じて、○○(5の内容)が自分たちの班の「より洗練された質の高い探究」に向けたポイントであると感じたため、今後そのことを意識しながら○○(4の内容)していきたい。◀

本時の活動を自己評価(A・B・C評価)してみよう。◀

本時の自己評価 ◻

<評価基準>

- 「より洗練された質の高い探究」に向け、自身のポイントを複数押さえた上で、今までの探究活動の取組及び今後のTODOを自分の言葉にまとめ、今後に活かすことができる。(A評価)◀
- 今までの探究活動の取組が整理でき、「より洗練された質の高い探究」に向け、自身のポイントを1つでも自分の言葉で表現できる。(B評価)◀
- グループ及び班でのコミュニケーションを通じて、自身の今までの取組に関して振り返ろうとしている。(C評価)◀

尚志講座実践例

実施時期	教科	学年	各教科と総合的な探究の時間の繋がりについて
1、2学期 (6~9月)	家庭基礎	1	尚志講座とホームプロジェクトの双方の授業を通じて、探究のノウハウについて学びを深めている。取組を通じて、ホームプロジェクトの代表生徒が小国高校の文化祭にて発表を行っている。
2学期 (9~12月)	公共	2	日経 stock リーグに取り組む中で、探究活動に関連したSDGsの目標や関連する企業の分析を行い、ポートフォリオを構成し、社会課題解決に取り組む企業への投資を呼びかけるレポートを作成した。自分が取り組んでいる探究活動に関連する企業を発見することができた。自分の身近な課題を更に広い視野で捉えることができた。
2学期 (11月)	数学	1	総合的な探究の時間におけるデータの活用(データの収集・整理、数値データの分析)の分野には数学が絡んでいるため、「データの分析」の単元の授業が今後の探究活動に繋がるようにすることと、データを根拠をもって説明できるようになってもらうことを目的として『とどラン』(都道府県別統計とランキングで見る県民性)のデータを用いて、相関係数をスプレッドシートで求めさせることにより、自身が立てた「仮説」をデータで「分析」し「検証」する授業を行った。
3学期 (2、3月)	現代の 国語	1	「レポートの書き方」についての一連の学習が尚志『ジブンゴト』レポートに生かされており、各自のレポートに深まりを持たせられている。

教科横断的な学びを通じた探究的な学びの推進について

活動内容報告④（CORE、教科横断的な学びについて）

【研究内容 3、4】

【CORE関係校（県内3校）との関わり】

- 5月 : 第1回夢への架け橋連絡協議会にて意見交換
- 7月～ : 牛深高校とのオンライン連携
- 11月～ : 球磨中央高校提案の「ノート」作成への協力
オンラインミーティングへの参加
- 12月 : くまモンプロジェクト中間報告会、KSH発表会
- 3月 : くまモンプロジェクト最終報告会

他校生の取組から良い刺激を得られ、
各自が学びを深めることができた。

牛深高校とのオンライン探究（計4回実施）



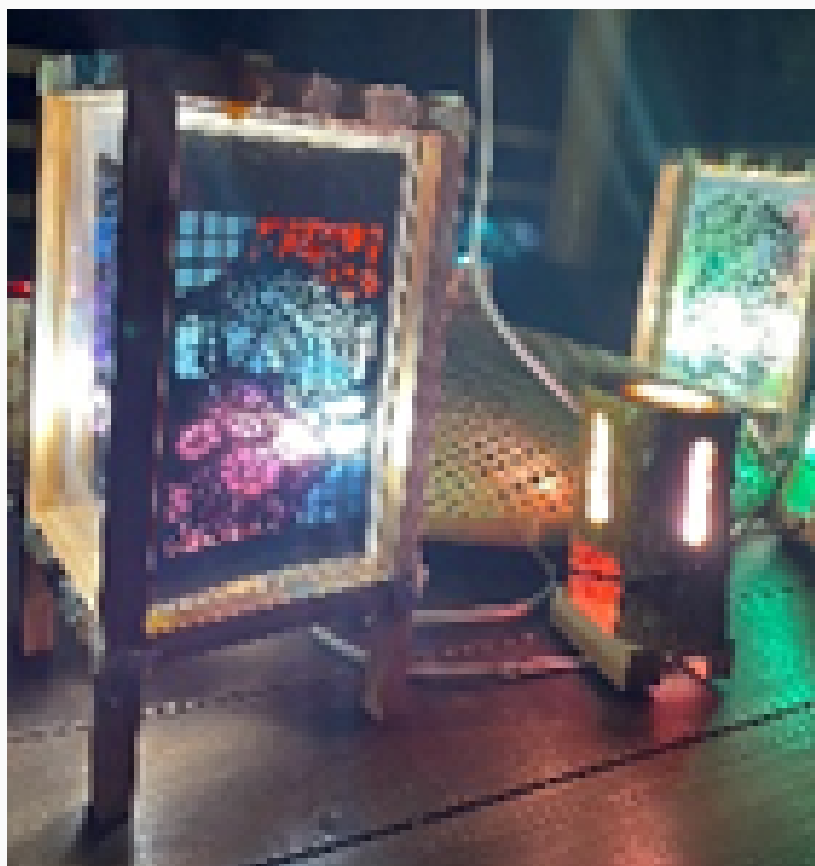
小国高校



牛深高校

第〇回	月	内容	主な動き
1	7	顔合わせ、互いの探究テーマの紹介	← イルミネーション提案
2	8	夏休みの成果報告	→ 端材の情報提供
3	11	現状報告及び互いの成果物報告	↔ お互いの作品をライトアップ
4	1	学びの祭典のふり返し、イルミネーションの集客状況について、次年度に向けて	← 小国高生へのアドバイス イルミイベント延べ3万人の来場

COREについて



牛深高校とのコラボ



学校横断型探究プロジェクト合同授業の様子
[金ヶ崎高校・小国高校・
高千穂高校・足利特別支援学校]

03-5

活動内容報告⑤（校内Instagramの開設、 地域及び近隣中学校への情報発信について）【研究内容5】



活動内容報告⑥（面談週間、校内尚志発表会、 尚志『ジブンゴト』レポートの作成）【研究内容6】



面談の様子



校内尚志発表会

尚志『ジブンゴト』レポート

（テーマ）

1年間の尚志の取組を通じて、どのようなことを学び・経験し、どのような力が身についたと思いますか？

また、来年度（又は将来）に向けてどのような力を伸ばしていきたいと考えているか。

04 OGUNI-GOプロジェクト紹介

04

OGUNI-GOプロジェクト紹介

RKK（熊本放送）番組名：からふる 放送日：2月24日

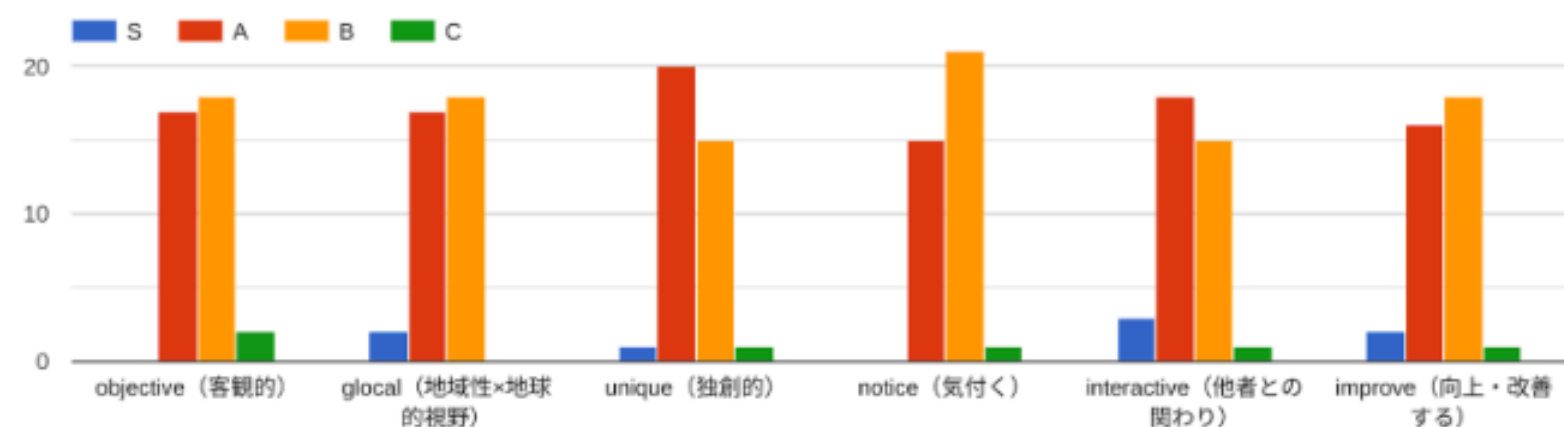


05 これまでの研究の成果と課題

OGUNIルーブリック結果（1学年）

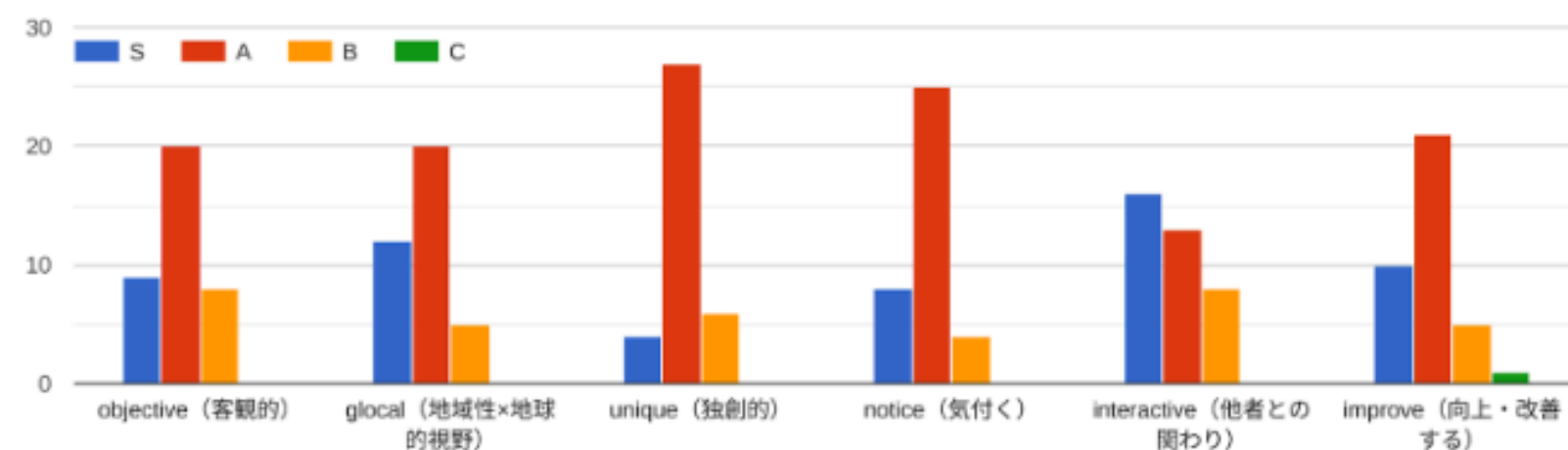
① 1年生結果

(中間：11月実施、37名/37名中 回答、換算値平均：2.509)



	O	G	U	N	I1	I2	計
S	0	2	1	0	3	2	8
A	17	17	20	15	18	16	103
B	18	18	15	21	15	18	105
C	2	0	1	1	1	1	6
平均	2.405	2.568	2.568	2.378	2.622	2.514	2.509

(最終版：2月実施、37名/37名中 回答、換算値平均：3.095[前回比+0.586])

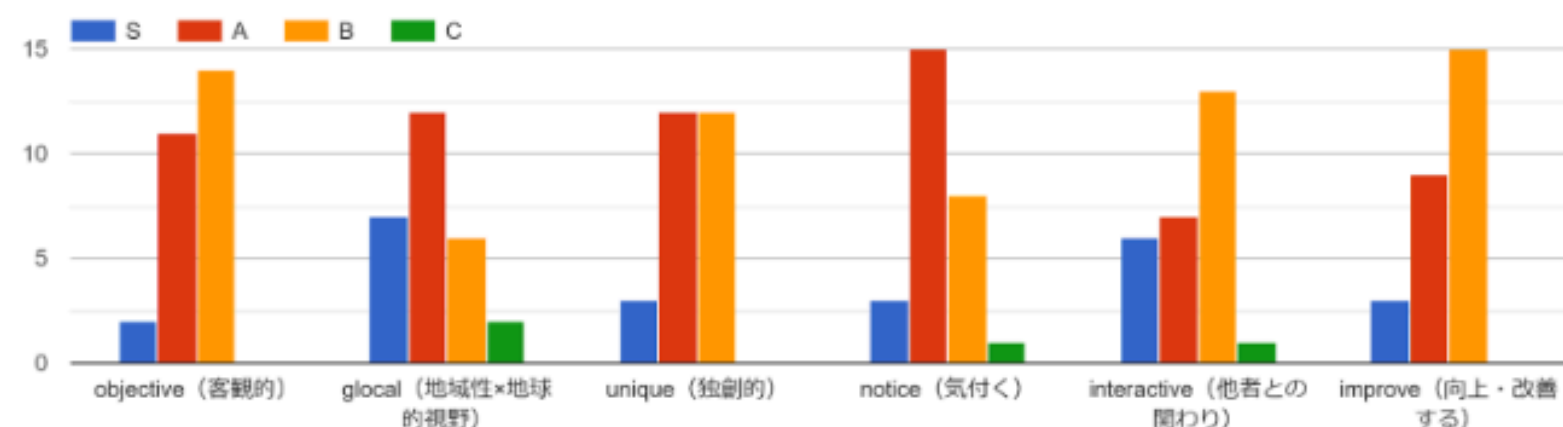


	O	G	U	N	I1	I2	計
S	9	12	4	8	16	10	59
A	20	20	27	25	13	21	126
B	8	5	6	4	8	5	36
C	0	0	0	0	0	1	1
平均	3.029	3.200	2.943	3.086	3.200	3.114	3.095

OGUNIルーブリック結果（2年1組）

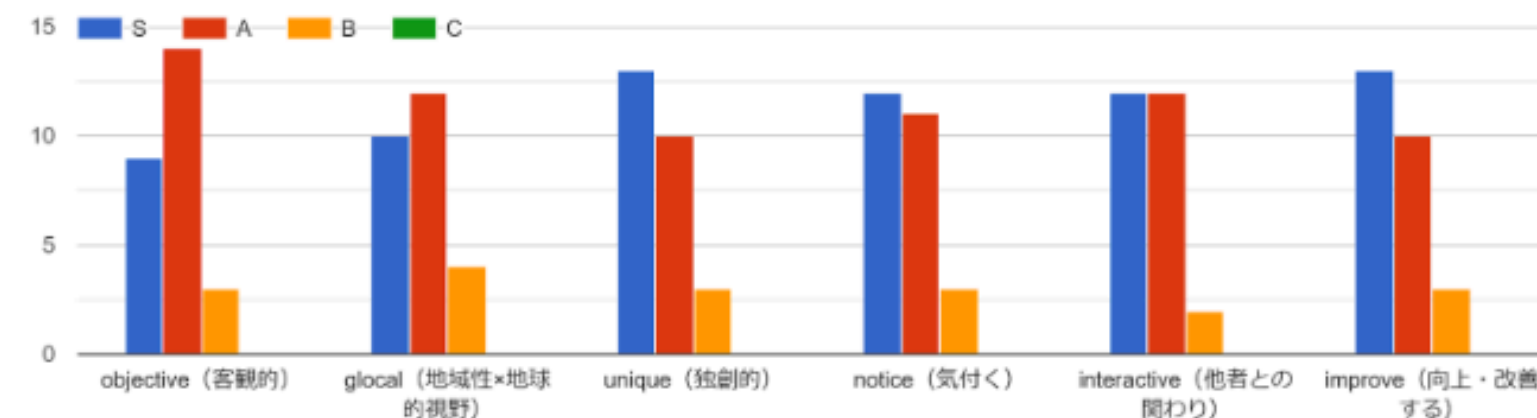
② 2-1 結果

(中間：12月実施、27名/27名中 回答、換算値平均：2.679)



	O	G	U	N	I1	I2	計
S	2	7	3	3	6	3	24
A	11	12	12	15	7	9	66
B	14	6	12	8	13	15	68
C	0	2	0	1	1	0	4
平均	2.556	2.889	2.667	2.741	2.667	2.556	2.679

(最終版：2月実施、26名/27名中 回答、換算値平均：3.327[前回比+0.648])

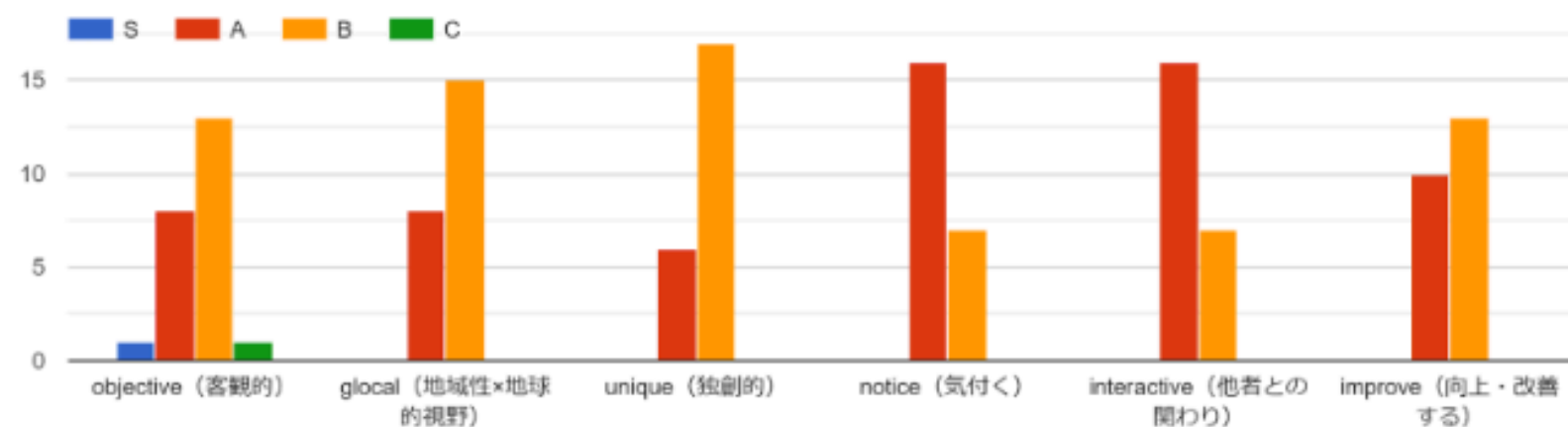


	O	G	U	N	I1	I2	計
S	9	10	13	12	12	13	69
A	14	12	10	11	12	10	69
B	3	4	3	3	2	3	18
C	0	0	0	0	0	0	0
平均	3.231	3.231	3.385	3.346	3.385	3.385	3.327

OGUNIルーブリック結果（2年2組）

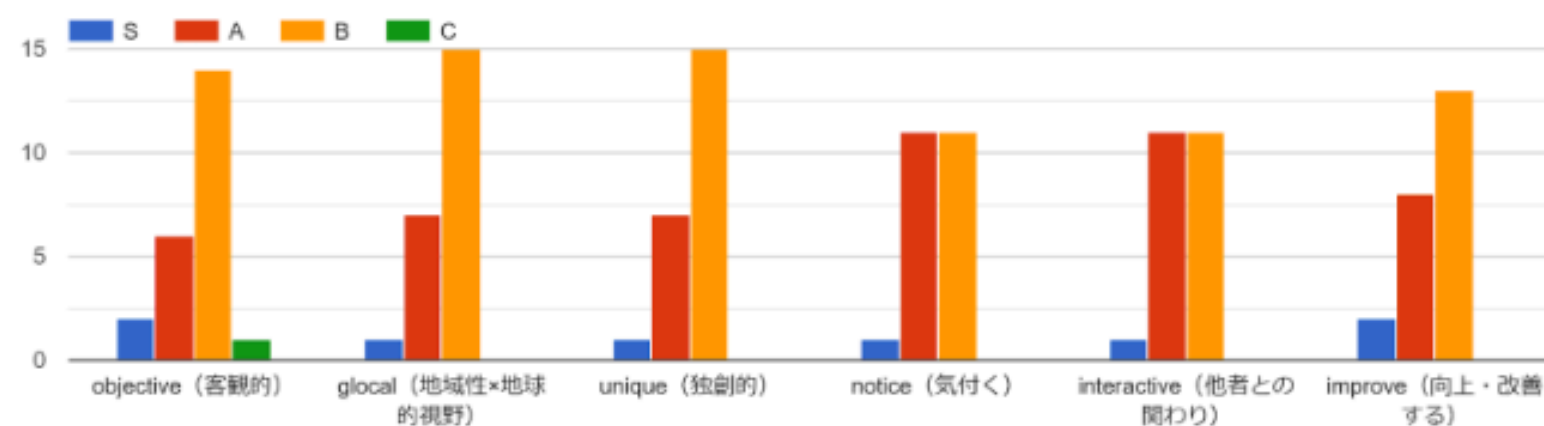
③ 2-2 結果

(中間：12月実施、23名/24名中 回答、換算値平均：2.471)



	O	G	U	N	I1	I2	計
S	1	0	0	0	0	0	1
A	8	8	6	16	16	10	64
B	13	15	17	7	7	13	72
C	1	0	0	0	0	0	1
平均	2.391	2.348	2.261	2.696	2.696	2.435	2.471

(最終版：2月実施、23名/24名中 回答、換算値平均：2.471[前回比+0.000])



	O	G	U	N	I1	I2	計
S	2	1	1	1	1	2	8
A	6	7	7	11	11	8	50
B	14	15	15	11	11	13	79
C	1	0	0	0	0	0	1
平均	2.391	2.391	2.391	2.565	2.565	2.522	2.471

- ルーブリック評価の換算値平均が1学年：（中間）2.509⇒（最終版）3.095に、2学年：（中間）2.583⇒（最終版）2.925へとともに向上しており、生徒の自己肯定感の向上及びルーブリックに書かれている資質・能力が身につけている手ごたえが各生徒に得られていることがデータよりわかる。
- 上記のデータが得られた背景としては、①年間の尚志の目標でもある、コミュニケーション能力をはじめとした資質・能力を育成するため種々の実践が行えたこと、②例年より多くの講演会を実施し、生徒が地域への理解を深め、色々な角度から物事をみられるようになったこと、③対外的な取組を通じて学校と地域の関わりが以前よりも密接になっていたことが成果要因として挙げられるのではと推察する。
- 校内尚志発表会のアンケートより、地域からは高校生に対する期待感が伺われる一方、2年生からは生徒自身の活動が多岐に渡ることへの困り感・不安感を訴える生徒が一部いたので、来年度継続実施予定の『OGUNI-GOプロジェクト』を軌道に乗せるためにも、プロジェクトの内容をどのように整理するべきかが課題である。



色覚特性の方でも楽しめる鍋ヶ滝ライトアップを実現

「自分の興味のある分野と企画に、町の方々に共感していただき、企画を実現させることができた。苦労もあったけれど、自分の町に貢献できたことや、多くの方から協力していただいたり、感謝の言葉をもらえたことが嬉しい。」

- ・ 昨年度の課題の整理と、次年度に向けた地域の有識者との連絡会議及び年間計画の骨子の作成
- ・ 『OGUNI-GOプロジェクト』の新2年生への引き継ぎ及び事前学習
- ・ 新年度、新たに加わる職員を含めての尚志の取組への理解と実働に向けた組織体制の確立

THANK YOU!

ありがとうございました!

ご質問やご相談などありましたら、
お気軽にお問い合わせください!
